

自治会町内会をはじめとした地域のICT活用事例 新しいつながりのおすすめ

暮らし方や働き方が多様化している今だからこそ、地域の住民同士の「つながり」は大切なものとなっています。これまでのつながりを大切にしつつ、新たに「ICT(情報通信技術)」を自治会町内会などの活動に取り入れることで、事務の効率化が進み、活動の幅が広がります。



簡単



慣れてしまえば簡単

どこからでも参加できるオンライン会議



便利



情報共有が便利に

過去の会議資料等の電子化・インターネット保存



安心



もしもの時の安心

災害時にはメールやSNSで迅速な情報伝達



つながる

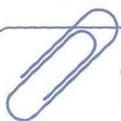


幅広い世代とつながる

地域に届きやすい情報発信で参加しやすいまちづくり

ICT
とは？

「ICT」とは、情報通信技術そのもの、またはその技術を使ったコミュニケーションのことを指します。スマートフォン(スマホ)やパソコンなどのICT端末を利用した「つながるまちづくり」で、見守り、助け合い、安全・安心など、地域力の向上を図ります。

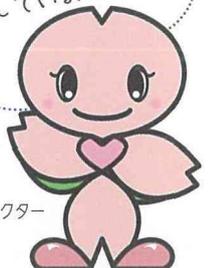


南区 | ちょっと/コーディネーター派遣

スマホやSNSの使い方や、オンライン会議のやり方など、南区で活動する団体のICTのお困りごと解決のために、南区ではご相談に応じてコーディネーターを無料で派遣しています。

横浜市南区総務部地域振興課 TEL: 045-341-1239

南区では
地域活動の
「新しい活動スタイル」
を応援しています



南区マスコットキャラクター
みなつち

人のつながりを大切にする地域の活動

会議・打ち合わせ

集まって実施

高齢化や働き方の多様化で、集まることが難しい方々があります。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、流行期に集まることはより難しくなりました。

資料の保管・閲覧

紙など現物による管理・保管

紙による資料保管は、現物があることの安心感がある一方、紛失のリスクや探す手間がかかります。また、団体によっては資料の保管場所が課題になります。

会員へのお知らせ

電話や回覧板で伝達

電話や回覧板は、お互いの顔や声を確認できる良さがありますが、緊急連絡の時には、不在であったり、大勢に伝えるための時間がかかってしまう場合があります。

私の地域ではこのやり方でつながっているよ

ICTを利用するとどうなるのかしら

◆ スマホやパソコンでさらに広がる地域活動 ◆

ICTを活用した「新しい活動スタイル」



簡単

オンライン会合

お手持ちのスマホやパソコンで誰でも簡単・気軽に始められます。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ICT導入の第一歩として、自治会町内会等の会合をオンラインに切り替える動きが進んでいます。

- 自宅や外出先など、参加する場所を選べます
- 直接の接触を避けられるので感染症対策になります
- マスクをせずに表情を見ながら会話が出来ます

初めは難しそうに感じただけだけど、もともと持っていたスマートフォンを使って参加できるし、慣れれば、電話とあまり変わらず簡単だね。



便利

資料・記録の電子化

会議資料や住民向け広報を、電子データ化してインターネット上に保管すると、会員内で共有することができ、過去の資料などの閲覧・検索がしやすくなります。

- 自宅のパソコンからでも資料を見ることが出来ます
- インターネット上に保管するので、紙を減らせます
- 行事の写真などを保存し、会員が自分で取り出せます

行事や防災の決まり事などのマニュアルがインターネット上に保存されていると、仕事が忙しい私も、スマホから資料が見られて活動に参加しやすくなりますね。



安心

つながる

ホームページやSNS

災害時の連絡は、電話よりSNSの方が多くの人に早く情報を届けられる場合があります。ホームページやSNSなどによる地域情報の発信は幅広い世代に届きやすいです。

- 電子掲示板で住民同士の情報交換ができます
- ポスターより手軽に告知できます
- 「私達のまちの魅力」を動画や写真で広く発信できます

もしもの時の情報が書いてあるから安心ね。今まであいさつだけだった人ともSNSでは会話ができて、前よりご近所さん同士がつながっていると感じるわ。

行事への出欠やアンケートもSNSで出来るんだね。たくさんの人に自治会町内会の活動に興味をもってもらえそうだね。



わたしたちはICTを活用しています！

南区内で活動される皆様のICT導入事例

地区連合の活動にICTを取り入れる取組を進めています

六ツ川地区連合自治会

コロナ禍を受け、区役所や市役所が開催したICT講習会などを受講し、連合の打ち合わせや会議へのZoomでの参加を可能にしました。



オンライン会議は回を重ねることでだいぶ違和感がなくなってきました。こうしたツールを併用することにより、今まで築き上げてきたつながりを維持することができます。

今後自治会町内会の活動は大きく変わっていくと思いますが、この変化により、若い世代の参加促進や、活動の負担の軽減が図られると思っています。「新しい活動スタイル」の導入をさらに進めるための部会を立ち上げることも計画しています。会員の皆さんにとって、より良い自治会町内会となるよう、引き続き考えていきたいです。



最上 直さん
六ツ川地区連合自治会長



芹田 昌幸さん
港南郷自治会長

連合役員の方たちは、こどもたちの幸せを願い、地区の行事などについて、真剣に議論しています。この「人の良さ」が好きで、多くの人たちにも知って欲しいと思っています。しかし年齢からくる価値観の違いもあり、若い世代のお父さん、お母さんとはすれ違いが起きているように感じています。ここをつなげられると良いことが起きる気がしていて、Zoomでの連合会議開催は小さな一歩ですが、架け橋的な想いを込めています。

活動を止めないために！

南区青少年指導員協議会

コロナ禍でも活動を止めないために、連絡手段にLINEを使ったり、研修会でYouTubeの動画を活用したり、無理のないところからICTの活用を始めています。



集まれなくても活動を続けていくために、太田地区では、地区の青少年指導員でZoom会議の練習を続けています。はじめは、音が出なかったり、うまくつながらない等の失敗もありましたが、教え合いながら、今では資料の画面共有にも挑戦し、以前から連絡用に使用しているLINEに加え、ZOOMが手軽なコミュニケーション手段となるよう、みんなで練習中です。(写真：太田地区のみなさん)

我々の活動は「対面のつながり」が基本ですので、ICTの活用は難しいと思っていました。青少年指導員はそれぞれLINEを使っていましたが、区役所（事務局）とつながっていなかったため、連絡手段としては考えてはいませんでした。しかし、今回事務局との連絡にLINEを導入してみたら、お互いがとても便利になりました。今後も、ICTの良い面を理解して、無理のない活用をしていきたいと考えています。



山崎 直宏さん
南区青少年指導員協議会会長